



自宅の書斎のように居心地が良く、約3万冊の蔵書を読覧できる

KADOKAWA MUSASHINOMUSEUM



A

隈研吾が設計を手がけた、外観から階層構造を読み取れない「角川武蔵野ミュージアム」は5階建て。
同館は、高さ30メートルの巨大な岩をモチーフにした建物だ。外壁には、1つおよそ50kg、70kgの花崗岩を約2万枚を使い、66枚の三角形を組み合わせた複雑な外観は、見る角度や光の加減によって様々な表情を見せる。
『角川武蔵野ミュージアム』の象徴となるのは、高さ8メートルの巨大本棚に囲まれる空間「本棚劇場」。そこに収められているのは、KADOKAWA刊行物、角川源義文庫、山本健吉文庫、竹内理三文庫、外間守善文庫、山田風

隈研吾が設計

角川武蔵野ミュージアム

太郎文庫のほか、個人蔵書の書物約3万冊だ。

「本棚劇場」では、定期的に「本と遊び、本と交わる」をコンセプトとしたプロジェクト「本と遊び」が上映される。

同館には「本棚劇場」のほか、1階にマンガラノベ図書館とグランドギャラリー、2階にメインエントランスホールとミュージアムショップ&カフェ、そして「本棚劇場」のある4階と5階には、武蔵野回廊、エディットタウン、ワ

続きは月刊アミューズメントジャパン2月号をご覧ください



D



C



B

A／設計した隈氏は角川武蔵野ミュージアムを「大地から隆起してきたような」あるいは「大地の深いところに突き刺さっているような」建築にしたかったという B／回廊の壁にも凝ったライティングの本棚 C／所蔵される本の世界観が楽しく表現されたオブジェがいたる所にディスプレイされる D／所沢周辺の歴史や文化を紹介する展示物も充実している「武蔵野ギャラリー」